

フランス語*

敦賀 陽一郎

フランス語の受動は基本的に「être+他動詞の過去分詞」で作られ、動作主は「前置詞 par+名詞」によって表される。また、能動態の間接目的は原則として受動態の主格にはならない。また、受動に近いニュアンスは代名動詞構文（中動態にほぼ対応と考えてよい）「se+動詞(直訳：自身を/に～する)」でも表されることがある。その所為もあつてか、話し言葉では受動態自体の頻度はそれほど高くないが、論文、などの書き言葉ではけっこう出現する。

(ア) A は B に叩かれた。

- a. A a été battu par B. (受動)
 avoir 時助 être 過分 battre 叩く過分 によって前
 — battre 受複過 —
- b. A s' est fait battre par B.
 自身を代対 être 時助 faire 使助過分 叩く不定詞 によって前
 — se faire 代動複過¹ —

(ア)b.は使役の代名動詞構文で直訳は「A は自身を B によって叩かせる」。全体の意味は(ア)a.とほぼ同じで、(ア)a.よりも A の視点が強調され、より強い印象を与える。

(イ) A は B に足を踏まれた。(持ち主の受身、身体部位)

- a. A s' est fait marcher sur le pied par B.
 自身に代与 être 時助 faire 使助過分 歩く不定詞 の上を前 定冠 足 によって前
 — 代動 se faire 複過 —²

* 母語話者による確認あり。

¹ 時助：時制の助動詞，過分：過去分詞，前：前置詞，複過：複合過去，代対：代名詞対格，使助過分：使役の助動詞の過去分詞，受：受動，代動複過：代名動詞の複合過去

² 代与：代名詞与格，定：定冠詞

b. B a marché sur le pied de A. (能動文)

歩く_{複過} 上を_前 定冠 足 の_前

c. *B a marché sur le pied à A. (能動文)

に_前

直接目的でなければ受動の主格にはなれないが、(イ)a.のように使役代名動詞構文により A に対する受動のニュアンスが表現できる ((イ)a.の直訳は「A は自分に対して B によって足の上を歩かせる」).

(イ)b.は通常の能動文で「B は A の足の上を歩く」で「A は～される」のニュアンスはない.

(イ)c.は前置詞 à により「A に対して」のニュアンスが出るが (つまり、「A は～される」の多少のニュアンス), これは不可.

(ウ) A は B に財布を盗まれた (持ち主の受身, 持ち物)

a. A s' est fait voler son porte-feuille par B.

自身に/から_{代身} être_{時助} faire_{使助過分} 盗む 自分の_{所形} 財布_{直目} によって_前

「A は B に財布を盗まれた。」

b. B a volé son porte-feuille à A.

voler_{複過} から_前

「B は A から彼の財布を盗んだ。」

c. B a volé le porte-feuille de A.

の_前

「B は A の財布を盗んだ。」

d. Le porte-feuille de A a été volé par B.

財布 の_前 voler_{受複過} によって_前

「A の財布は B によって盗まれた。」

(ウ)a.は使役の代名動詞構文で「A は～される」のニュアンスが出てくる.

(ウ)b.は前置詞 à 「から」により「A は」のニュアンスが多少出てくる.

(ウ)c.と(ウ)d.は「A は」のニュアンスは全くない.

(エ) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった. (自動詞からの間接受身)

- a. Cette nuit, mon bébé a crié et je n' ai pas
 昨夜 私の 赤ん坊 泣く crier 複過 そして 等接 私は 否副 時助 否副³
 pu dormir du tout à cause de cela.
 出来る pouvoir 過分 眠る 不定詞 全く ~の所為で 前 それ
- b. Cette nuit, mon bébé a crié et je n' en ai pas pu dormir de la nuit.
 その所為で 副代⁴ 一晚中
- c. *Cette nuit, mon bébé m' a crié et je n'ai pas pu dormir du tout à cause de cela.
 私に 代身

(エ)a.~(エ)c.まで全て能動. (エ)c.は代名詞与格の m'「私に」により「私は」のニュアンスを多少被表現しうるが、これをつけると不可になる.

(オ) 新しいビルが (A によって) 建てられた. (モノ主語受身, 一次的)

- a. Un nouveau bâtiment a été construit (par A). (受動)
 不冠⁵ 新しい ビル construire 受複過 によって 前
- b. Il a été construit un nouveau bâtiment (? par A).
 非主 construire 受複過 不冠 新しい ビル によって 前

(オ)b.は非人称受動だが動作主「A によって」をつけるとおかしくなる.

(カ) カナダではフランス語が話されている. (モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

- a. Au Canada on parle français. (能動)
 À + le カナダ 不代主 話す フランス語 直目⁶
 で 前 定冠
 「カナダではフランス語を話す。」
- b. Au Canada le français est parlé. (受動)
 カナダで 定冠 フランス語 主 être 受助 parler 過分
 — parler 受 —

³ 等接：等位接続詞，否副：否定副詞

⁴ 副代：副詞的代名詞

⁵ 不冠：不定冠詞

⁶ 不代主：不定代名詞主格，直目：直接目的

c. Au Canada le français se parle. (代名動詞)

カナダで フランス語_主 自体を_{代対} 話す

d. Au Canada ils parlent français. (能動)

彼らは_主 話す フランス語_{置目}

(カ)a.~(カ)b.の全てが可能だが、不定代名詞の on (「主格の人間」以外の具体的意味はない) を主格とする(カ)a.が一番普通。(カ)c.の意味は(カ)a.の意味に近い。

(キ) 財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身。モノ主語の背後に被影響者が想定される)

a. Le porte-feuille a été volé (par A).

voler_受

論理的には被影響者(「誰それは」)は考えられるが、この受動構文自体はそのニュアンスを示さない。

(ク) 壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身、結果状態の叙述。)

a. Le tableau est accroché (fixé) au mur.

絵_主 掛ける(固定する)accrocher(fixer)_受 に_前 壁

「絵が壁に掛けられている。」

b. Le tableau s' accroche (se fixe) au mur.

自体を_{代対} 掛ける 固定する 壁に

「絵は壁に掛ける (ものだ).」

(ケ) A は B に／から愛されている。

a. A est aimé par B.

によって_前

b. A est aimé de B.

から_前

(ケ)a.と(ケ)b.はほぼ同じだが、par は行為、de は状態を表す傾向がある。

(コ) A は B に／から「...」と言われた。(伝達動詞の受身、特に動作主のマーカーに注目)

- a. A s' est fait dire par B que...
自身に代与 être 時助 faire 佐助過分 言う によって前 「...」と従続
- b. Il a été dit à A par B que...
非人主 言う dire 受複過 前 によって前 「...」と従続⁷

(コ)a.は使役代名動詞構文で直訳は「A は自身に B によって言わせる」。 (コ)b.は非人称受動。両方とも受動のニュアンスが出てくるが、「A は」のニュアンスは(コ)a.の方がはっきり出てくる。

⁷ 非人主：非人称主格，従接：従属接続詞